



グループの仲間と学び、支え合う酪農経営 ～網走市・デ일리ウーマンズの取り組み～

札幌事務所 福寿 悠星

【要約】

北海道網走市を拠点に活動するデ일리ウーマンズ（Dairy woman's）は、酪農経営に関する悩みや疑問を解決するため、平成24年に数名の女性酪農家によって結成された。同グループは、メンバーが自主的に研修会などを開催し、それらの活動を通じて得た技術や知識を生かしておのの酪農経営の改善に取り組んでいる。

1 はじめに

令和2年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～」では、新たに「認定農業者に占める女性の割合」についての成果目標が盛り込まれるなど、近年、女性農業者を取り巻く環境や女性農業者の取り組みに注目が集まっている。

農林水産省（以下「農水省」という）は、農村地域や農業に人材を呼び込み、地域や農業を発展させていく上で、女性の農業経営への参画と地域農業に関する方針策定への参画の推進が重要であるとし、2年7月に「女性の農業における活躍推進に向けた検討会」を

立ち上げた。同年12月に発表された同検討会の報告書では、「女性農業者の学び合い・女性グループ活動の活性化」が女性農業者の活躍推進に向けた重要な要素として位置付けられている（表1）。

こうした中、本稿では、北海道の令和元年度女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業において最優秀賞を受賞するなど、注目を集める女性酪農家グループ、デ일리ウーマンズの活動を紹介するとともに、メンバーが考える「女性からの視点に基づく酪農経営」について紹介する。

表1 女性農業者が輝く農業創造のための提言概要

農村における意識改革
- 研修・会合の案内の宛先への夫婦両方の名前や子の名前を記載、女性農業者向け会合等における託児サービスの提供、介護サービスを利用しやすくするための早期案内発出 - 家族経営協定^(注)について、農業高校生や経営継承者などへの周知、ライフステージに応じた協定内容の見直しなどの推進
女性農業者の学び合い・女性グループ活動の活性化
- 都道府県や市町村における女性農業者向けの一元的相談窓口の設置 - 女性グループの活動の発掘、グループをつなぐ横断的ネットワークづくりの推進 - 子育て、介護支援に係る情報発信
地域をリードする女性農業者育成・地域農業の方針策定への女性の参画
- 女性リーダー育成研修、女性の横断的交流の推進 - 農業委員やJA役員への女性の登用について継続的な目標設定、都道府県・市町村における具体的な目標の設定 - 女性登用と組織の収益向上に係る客観的調査の実施 - 市町村・農業委員会で、地域での話し合いにおける女性参画目標を設定
女性農業者に係るプラットフォーム機能（基盤）の強化
- 農林水産省女性活躍推進室がプラットフォームとして、他省庁、都道府県、市町村、JA、農業委員会、全国農業会議所等と連携強化 - 10年を目安にレビューを実施

資料：農林水産省「女性農業者が輝く農業創造のための提言～見つけて、位置づけて、つなげる～概要」

注：家族農業経営にたずさわる各世帯員が、意欲とやり甲斐を持って経営に参画できる魅力的な農業経営を目指し、経営方針や役割分担、家族みんなが働きやすい就業環境などについて、家族間の十分な話し合いに基づき取り決めるもの。

2 女性と農業のかかわり

(1) 農業分野における女性の参入状況

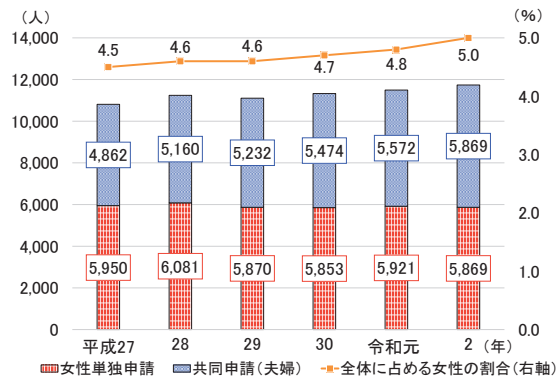
令和3年2月に公表された農水省の「農業経営改善計画の営農類型別等の認定状況（令和2年3月末現在）」によると、2年における女性の認定農業者^(注1)数は5869名、夫婦の認定農業者数は5869名となり、合計で1万1738名となった。この結果、女性単独および夫婦の認定農業者数は、平成27年～令和2年の間に8.6%増加し、認定農業者数に占める女性の割合は、0.5ポイント増加した（図1）。一方で、北海道の女性単独および夫婦の認定農業者数は、平成27年～令和2年の間にやや減少し、認定農業者数に占める女性の割合についても0.1%の増加と、大きな変化はなかった。そのため、全国と比較すると女性単独および夫婦の認定農業者数は

伸び悩んでいると言える（図2）。

また、女性の農業経営への関与について、農水省の「令和元年度 食料・農業・農村白書（令和2年6月16日公表）」によれば、売上規模が大きい経営体ほど女性が経営に関与している割合が高いという結果が出ている（図3）。さらに、農水省が「2015年農林業センサス」を基に取りまとめた女性の経営参画割合を部門別（稲作、施設野菜、果樹、酪農、肉用牛、養豚）に見ると、酪農が63.1%で最も参画割合が高い部門となっており、すべての部門で販売金額の上昇に応じて女性の経営への参画割合も上昇している。

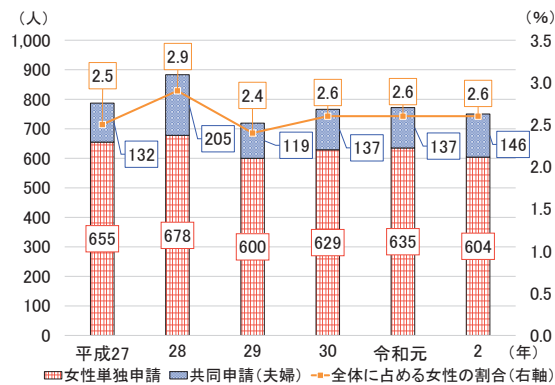
（注1） 認定農業者制度は、農業者が市町村の農業経営基盤強化促進基本構想に示された農業経営の目標に向けて、自らの創意工夫に基づき、経営の改善を進めようとする計画を市町村などが認定する制度。認定農業者は、同制度において認定を受けた農業者のこと。

図1 女性の認定農業者数と全体に占める割合の推移（全国）



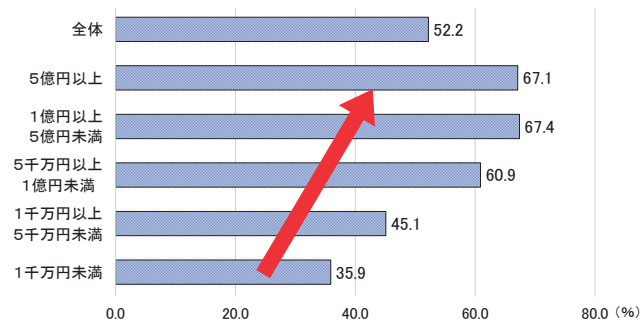
資料：農林水産省「農業経営改善計画の営農類型別等の認定状況」
注：各年3月末時点。

図2 女性の認定農業者数と全体に占める割合の推移（北海道）



資料：農林水産省「農業経営改善計画の営農類型別等の認定状況」
注：各年3月末時点。

図3 女性が農業経営に関与している割合（売上規模別）



資料：株式会社日本政策金融公庫農林水産事業本部「令和元年7月農業景況調査」
(令和元(2019)年12月)を基に農林水産省作成

注1：調査対象は、日本政策金融公庫のスーパーL資金または農業改良資金の融資先のうち、19,215先を対象として実施(回収率28.0%)。

注2：役員や管理職などとして女性が1人以上経営に関与している経営体の割合を示す。

(2) 農業分野における女性の課題

前述の「女性の農業における活躍推進に向けた検討会」では、今後取り組むべき課題と

して、(1) 家事・育児・介護の負担軽減－
固定的役割分担知識の是正 (2) ワーク・ライフ・バランスの改善 (3) 地域をリードする女性農業者の育成・地域農業の方針策定へ

の女性への参画一の3点を挙げている。また、平成30年3月に公表された農水省の「平成28年度農村女性による女性起業活動実態調査の結果について」によると、28年度の農村女性による起業活動^(注2)数は、9～28年度の間、2倍近く増加したが、高齢化などを背景に、22年度をピークに減少傾向となっている。また、同調査において、「事業展開・運営における課題」の聞き取りを行ったところ、「人手の確保」「資金の確保」「相談窓口の確保」が上位三つの回答となった。

これらの調査結果からも読み取れるように、女性農業者を取り巻く課題については、周囲の理解や協力が必要不可欠であり、地域の相談窓口や学び合いの場としての役割を担う女性農業者グループの存在は、課題解決の一つとして重要だと考えられている。

(注2) 農村などに在住している女性を中心となっていく、地域産物を利用した農林漁業関連の女性の収入につながる経済活動(無償ボランティアは除く)であり、女性が主たる経営を担っている個別(単独)またはグループ(複数)の経営形態であるもの。

(3) 女性農業者グループを対象とした取り組みについて

平成25年に農水省によって設立された

「農業女子プロジェクト」は、令和4年3月時点で906名のメンバーが参加している。同プロジェクトでは、社会全体での女性農業者の存在感を高め、女性農業者自らの意識の改革、経営力発展を促し、職業としての農業を選択する若手女性の増加を図ることを目的としている。活動内容は、プロジェクトの参画企業と共同で新たな商品やサービスを開発したり、教育機関との連携により農業に携わる人材を発掘したりするといったものである。現在進行中の第9期(3年11月～4年10月)では、「地域グループ」と呼ばれる女性農業者グループの活動推進を活動方針としている。同プロジェクトのホームページからは「地域グループ」のSNSや活動報告なども確認できる。

また、農水省では、女性農業者向けの事業として「女性が変わる未来の農業推進事業」を実施している。本事業では、女性農業者の能力の発揮などによる農業の発展、地域経済の活性化のため、地域のリーダーとなり得る女性農業経営者の育成、女性グループの活動、女性が働きやすい環境づくり、女性農業者の活躍事例の普及などの取り組みを支援することとしている。

3 デイリーウーマンズについて

(1) 網走市の概況

デイリーウーマンズの活動拠点である網走市は、北海道東部に位置し、冬にはオホーツク海に流氷が接岸する(図4)。オホーツク海のほか、市内には、ラムサール条約に登録されている^{とうふつこ}湧湖を含めた大小五つの湖沼があり、水産業が盛んである。また、畑作が盛んな地域としても知られ、主に畑作3品(小

麦、てん菜、ばれいしょ)の他、だいこん、ごぼう、ながいもなどの野菜、豆類が生産されている。

夏は、一番暑い8月でも最高平均気温は25度を下回っているため、過ごしやすく、冬は、平均気温が氷点下を下回る月があるものの、道内の他の地域と比較して冷え込みは穏やかである(図5)。また、積雪量についても、道内の他の地域と比べると少なく、1

年を通じて比較的過ごしやすい気候である。

網走市が公表している「令和3年度あばしりの農業」によると、令和2年12月時点の農家人口は、1590人（総人口比4.6%）、農家戸数は320戸（総世帯比1.8%）である。農家戸数を経営体別に見ると、酪農は16戸、その他畜産は7戸、複合は13戸、畑作が284戸であり、畑作農家が全体の80%以上を占めている（表2）。

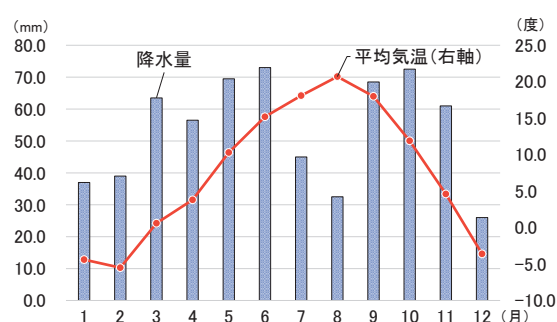
また、3年3月時点の農業生産額は、357億6649万3000円であり、そのうち、農産物生産額が118億9065万3000円（農業生産額比33.2%）、畜産物生産額が238億7584万円（同66.8%）である。畜産物生産額のうち、生乳については15億5233万円であり、畜産物生産額全体の6.5%を占める。

図4 網走市の位置



資料：網走市ホームページ

図5 網走市の月平均気温と降水量(令和2年)



資料：気象庁ホームページ

表2 網走市の農業の概要

総世帯数	1万8219世帯
総人口	3万4630人
農家人口	1590人
農家戸数	320戸
酪農	16戸
その他畜産	7戸
複合	13戸
畑作	284戸
農業生産額	357億6649万3000円
農産物生産額	118億9065万3000円
畜産物生産額	238億7584万円
乳用牛などの個体販売	7億7661万5000円
生乳	15億5233万円
畜肉・ブロイラー	215億4689万5000円

資料：網走市「令和3年度あばしりの農業」を基に機構作成
注：農産物生産額には奨励金を含む。

(2) デイリーウーマンズの概要

ア 結成のきっかけ

デイリーウーマンズ結成のきっかけは、メンバーの中島梨絵氏が平成22年に義父から牧場の経営を移譲されたことにある。当時の状況について、中島氏は、「経営移譲されたものの、酪農に関する知識が乏しく、飼養管理に関する疑問などを家族に相談しても解決できずにいた」という。その矢先に、後にグループのリーダーを務めることになる佐藤幸枝氏を配偶者から紹介され、悩みを相談したところ、地域の女性酪農家が数名集まったことで、24年7月にデイリーウーマンズが結成された。グループは、経営移譲などを機に酪農の経営に本格的に参入した4名で構成されており、同じような境遇にある者同士で悩みや疑問を共有し、学び合うための自主的な女性酪農家グループとして活動している（表3）。その利点として、リーダーの佐藤氏は、「組織のルールに拘束されずにメンバーの中で研修内容や活動日を設定できること、グループへの加入に事務手続きを必要とせず、気軽に参加できること、活動経費はメンバーの自己負担だが、自己負担することで研修などに真剣に取り組むこと」を挙げている。また、活動の立案から実施に至るまで、すべて自分

たちの手で行うことから、外的な制約が少なく、自分たちが知りたい、聞きたいことをリアルタイムで学べるという利点もある。

イ 令和元年女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業において最優秀賞を受賞

デイリーウーマンズは、北海道が実施する令和元年女性・高齢者チャレンジ活動表彰事業において、最優秀賞を受賞した。オホーツク総合振興局のホームページによると、仲間同士で切磋琢磨し、励まし合いながら情報収集や新技術習得、経営改善に取り組んでいることが評価されての受賞であった。メンバーからは、「介護や子育ての話といった仕事以外の話も遠慮なく相談でき、ストレス発散につながっている」という話があったように、グループの活動だけではなく、日頃から仕事以外のことも相談することにより、精神的にも支え合っている。

また、グループは本年度で結成10年目を迎え、地域における役割も変化しつつある。メンバーからは、「自主的な学習グループとして他グループの見本でありたい」「グループの活動で得た知識を地域に還元したい」「地域の若手女性酪農家の相談役でありたい」といった声があり、自分たちの活動を外に発信する機会も増えてきている。



写真1 デイリーウーマンズのメンバー。左から村上氏、リーダーの佐藤氏、中島氏、岩本氏。中島氏が手にしているのが、デイリーウーマンズのオリジナルTシャツである（デイリーウーマンズ提供）

表3 メンバーの概略

◎佐藤 幸枝氏（リーダー） 昭和61年より結婚を機に経営参加 【佐藤ファームの経営概要】 ・所在地（市町村）：網走市稲富 ・総面積：36ha ・従事者数：3名 ・飼養頭数：180頭 ・集荷乳量：1000t（令和3年4～11月の実績、以下同じ。）	○岩本 実季氏 平成16年より子育てが一段落したことを機に経営参加 【株式会社岩本牧場の経営概要】 ・所在地（市町村）：網走市平和 ・総面積：130ha ・従事者数：7名 ・飼養頭数：370頭 ・集荷乳量：1800t
○村上 美恵子氏 平成14年より義母の体調不良を機に経営参加 【村上牧場の経営概要】 ・所在地（市町村）：網走市卯原内 ・総面積：50ha ・従事者数：3名 ・飼養頭数：175頭 ・集荷乳量：960t	○中島 梨絵氏 平成22年より義父からの経営移譲を機に経営参加 【中島牧場の経営概要】 ・所在地（市町村）：網走市卯原内 ・総面積：80ha ・従事者数：6名 ・飼養頭数：245頭 ・集荷乳量：1200t

資料：メンバーからの聞き取りを基に機構作成

（3）デイリーウーマンズの活動内容

デイリーウーマンズの主な活動は、研修会の開催、牧場視察、酪農関係イベントへの参加である。

研修会では、メンバーの疑問や課題に沿ったテーマを設定する。農業改良普及センター、飼料メーカー、製薬会社、獣医師、人工授精師といった講師を招き、これまでに約20回開催している（表4）。また、不定期での開催ではあるが、メンバー同士で牧場を視察し合い、その場で気が付いた点について改

善策を話し合うバーンミーティングも行っている。この取り組みには、お互いの牧場の状況を確認し合うことで、経営者自身が気付けないことに周囲が気づき、直接アドバイスをもらえるという利点がある。グループ内では、メンバーのアドバイスを基に水槽の腐食部分をコンクリートで埋めて汚れがたまりにくいように改修した事例もある。

牧場視察では、国内外の牧場を視察し、他の酪農家の工夫や特徴ある取り組みについて学んでいる。視察先は道内が中心だが、平成26年3月にグループ初の海外研修として、



写真2 米国・ウィスコンシン州の牧場経営者から説明を聞く様子（デイリーウーマンズ提供）

米国・ウィスコンシン州に赴き、牧場視察や大学での酪農関係講座の受講などを行った。牧場視察の際には、最先端の子牛の管理方法、掃除や換気の方法、環境に配慮した取り組みなどを見学し、各牧場に導入できるかを検討した。こうした牧場の視察や前述の研修会で学んだ内容を生かし、メンバーごとに経営改善に向けた取り組みを実践している（表5）。このように、メンバーの疑問や課題に

基づいた研修内容が設定されていることにより、メンバーは意欲的に取り組むことができ、研修がより実践的なものになっている。

さらに、北海道酪農技術セミナーや酪農女性サミットなど道内のイベントに参加し、酪農に関する情報収集や参加者との交流なども行っている。デイリーウーマンズが参加している主なイベントについては、表6を参照されたい。

表4 研修会および牧場の視察（一部）

開催時期	活動内容	テーマ	講師または視察先
平成24年7月	研修会	酪農の基礎	農業改良普及センター
平成26年3月	牧場視察	米国の酪農経営について	現地牧場8カ所 ウィスコンシン州立大学 (米国・ウィスコンシン州)
平成26年11月	牧場視察	合理的な施設レイアウトによる効率的な酪農経営について…①	A牧場（清里町）
平成27年10月	研修会	各牧場の餌の分析結果について	酪農経営コンサルタント会社
同年12月	研修会	各牧場の牧草地の植生調査結果について	農業改良普及センター
平成28年5月	研修会	乳房炎の種類について…②	酪農経営コンサルタント会社
平成29年1月	研修会	乳房炎ワクチンについて…② 子牛が牛（反すう動物）になるまで	製薬会社
〃	牧場視察	ジェネティックマネジメントシステム（遺伝子管理システム）の利用について…③	B牧場（北見市）
同年3月	牧場視察	フリーストール牛舎の暑熱対策について…④	C牧場（上士幌町）
平成30年6月	研修会	ランシッド臭（脂肪分解臭）について	農業改良普及センター
同年7月	研修会	コクシジウム症 ^(注) の発症防止薬の効能について…⑤	製薬会社

資料：メンバーからの聞き取りを基に機構作成

注：原虫であるEimeria属コクシジウムの感染により引き起こされる疾病。3週齢～6カ月齢の子牛が感染しやすく、時に重篤な下痢を発症する。

表5 各メンバーの取り組み事例（一部）

表4の関係テーマ	取り組みの内容	効果	取り組み牧場数
①	牧場内の施設レイアウトの検討	動線に配慮した効率的な施設改修の実施	4
②	乳房炎ワクチンの導入	乳房炎発症数の軽減	1
③	ジェネティックマネジメントシステムの導入	近親交配の管理などのリスク回避	4
④	牛舎内の暑熱対策としてシャワー・ミストの導入	熱中症の軽減	4
⑤	コクシジウム検査の導入	感染牛の早期発見	4

資料：メンバーからの聞き取りを基に機構作成

表6 デイリーウーマンズが参加している主なイベント

イベント名	メンバーによるイベントの紹介
SAKURA会	十勝で開催されるイベントで、全道から参加者（女性のみ）が訪れる。当日は、女性の立場に立った事例が紹介され、酪農に限らず、農業に関わる多様な職種の女性と交流することができる。
北海道酪農技術セミナー	会場には農業機械メーカーなどの業者の展示ブースがあり、酪農関係の製品の紹介を受けることができる。酪農家としては最新の技術について学ぶことができ、業者としては酪農家の声が直接聞けるため、双方にメリットがあるイベントである。現在は、男性の参加者が多いが、女性の参加者も増えてほしいとの声もある。
酪農女性サミット（※現在は終了）	北海道のみならず全国、さらには海外の参加者からの酪農に関する話が聞ける。また、参加した女性達が生き生きと楽しんでいる姿に刺激をもらえる。
牛やの母ちゃんの会	近隣の女性酪農家と食事をしながら、有意義な時間を過ごすことができ、気分転換の場にもなる。

資料：メンバーからの聞き取りを基に機構作成



写真3 SAKURA会では、女性農業者同士が交流を深めている（デイリーウーマンズ提供）

（４）これまでの活動から得られた成果

メンバーに対し、これまでの活動から得られた成果を伺ったところ、大きく分けて、三つの回答があった（表7）。

リーダーの佐藤氏によれば、「そもそも網走では、地域的に酪農家向けの研修会が少ない」とのことだった。その点、デイリーウーマンズは、メンバーにとっての学びの場、課題解決の場としての役割のほか、仕事以外のことも気軽に相談できる息抜きの場としての役割も担っている。現在はコロナ禍の影響もあり、活動は縮小しているが、今後は、「結成から10年が経過し、メンバーの家族構成も変化している。それぞれが今後の酪農情勢

に合わせた経営になるよう、活動していきたい」とのことだった。

表7 デイリーウーマンズの活動から得られた成果

○成果
① グループの活動にメンバーの意見が確実に反映されるため、疑問点を相談することで、さまざまな活動を通じて、学び、実践できたこと
② 同じような境遇の仲間が身近にいるため、仕事に限らず、家庭のことも相談でき、仕事に対しても前向きな気持ちになれたこと
③ グループの活動を通じて知識を得たり、経験を積んだりする中で自信がつき、これまでよりも畜産関係会社の営業担当者や獣医師などの周囲の人に積極的に質問できるようになったこと

資料：メンバーからの聞き取りを基に機構作成

4 女性が酪農家として働くこと

(1) 女性が酪農家として働く上での苦 労・課題

デイリーウーマンズのメンバーは、それぞれが現在進行形で酪農経営を担っており、日々、さまざまな苦労や課題を感じている。例えば、牛の分娩や起立不能の介助といった力仕事は困難であることについては、「女性は男性と比べて筋力が劣るため、機械などに頼らざるを得ないところがある」といった意見が挙がった。また、朝晩の仕事が家事・育

児の時間と重なることについては、「どの仕事でも同じだが、いまだに家事・育児は女性の仕事、酪農は男性の仕事という役割意識がある」という意見が挙がった。

このような課題を踏まえて、今後、デイリーウーマンズのメンバーのように酪農分野で活躍する女性を増やすために必要なことを伺ったところ、「子育て・育児の支援体制の強化」と「省力化の推進」という回答があった(表8)。

表8 メンバーが考える酪農分野で活躍する女性を増やすために必要なこと

課題	対策	必要と考えられる対策案	効果
牛の分娩や起立不能の介助といった力仕事は困難であること	省力化の推進	省力化機械の導入やICT技術などの活用を対象とした経済的支援	時間的・体力的な負担を減らし、飼養管理において女性が活躍できる場面を増やすことができる。
朝晩の仕事の時間が家事・育児の時間と重なってしまい、時間のやりくりが苦しいこと	子育て・育児の支援体制の強化	デリバリーサービスに対する行政からの支援	時間的な余裕が生まれるだけでなく、地域の集まりや話し合いの場へ出席するための時間を確保することができる。

資料：メンバーからの聞き取りを基に機構作成

省力化については、各牧場で酪農・畜産向け牛群管理システム、GPS付きトラクター、餌寄せロボットなど労働負担の軽減に向けた取り組みを実践しているものの、時間のやりくりについては、苦労している状況である。前述の「女性の農業における活躍推進に向けた検討会」の報告書によれば、農林水産業に従事する女性の家事育児時間は、それ以外の職業に従事する女性よりも家事時間が多いことが指摘されている。そのため、酪農を含めた農業分野で活躍する女性を増やすには、「労力的な負担の軽減」と「時間的な負担の軽減」に向けた支援を行いつつ、固定的な役割意識

の是正も含めた女性農業者が持つ課題に対する理解を広めることが必要になると考えられる。

(2) 女性からの視点に基づく酪農経営

デイリーウーマンズのキャッチコピーは、「女性目線で酪農技術習得を」である。デイリーウーマンズにおける「女性目線」とは、「出産の経験があること、人間の子育てと牛の保育は、イコールであること」を指している。それは、牛の出産時に実際の母親の気持ちになって介助できること、子牛を育てると

きに自分の子育ての経験が生きることを意味している。メンバーは、こうした経験があること自体が、女性が酪農経営に関わるメリットだと考えている。出産や子育ての経験があることで、緊急時を想定した準備を事前に行うことや牛のわずかな変化にいち早く気が付

くことができるものと考えられる。つまり、デイリーウーマンズの考え方の根本にあるものは、「女性だから何か優れている」ということではなく、女性としての経験を生かして経営を行うということにある。

図6 デイリーウーマンズのロゴマーク



資料：デイリーウーマンズ提供

コラム 酪農の仕事を楽しくするカーフジャケット

デイリーウーマンズのリーダーである佐藤氏は、酪農経営の傍ら、寒冷地におけるホルスタイン子牛の保育に関する知識を伝える「CALF PLUS（カーフプラス）」という活動を行っている。その活動の一環として、寒い時期の子牛の体温を維持する「カーフジャケット」を佐藤氏自らがデザインし、販売している（コラム一写真）。

佐藤氏のカーフジャケットは、はっ水加工生地を使用しているため、水に強く、また、カイロポケットが備わっているため、保温効果が高いことが特徴である。こうした機能面でのこだわりのほか、「酪農の仕事が楽しくなってほしい」という願いを込めて、見た目にもこだわっている。



コラム一写真 佐藤氏がデザインを手掛けるカーフジャケット
(デイリーウーマンズ提供)

5 おわりに

今回は、女性の農業分野における活躍推進というテーマの中で、女性酪農家グループのデイリーウーマンズを紹介した。メンバーによると、それぞれが牧場を経営しながら、自分たちの力でグループを継続させるには、「自主的に継続していく気持ち」が必要とのことだった。今回の取材を通して、デイリーウーマンズでは、グループとして活動することで得られる学びや経験が経営の改善だけでなく、メンバーが個人として得られる成長や自信に結びついていることを認識した。デイリーウーマンズにおいて、「自主的に継続していく気持ち」が維持されている要因は、グループの活動が「誰かに与えられたこと」ではなく、「自分たちがやりたいこと」に基づいたものにあると思われる。

取材の最後に、将来酪農家を目指す女性に向けて「常に物事を前向きに考え、一人で悩まずとにかく誰かに聞いてみるのが大

事」というメッセージをいただいた。現在は、人が集まることが難しい状況が続いているため、悩みを抱える女性農業者が孤立しないよう、周囲からの声掛けに加え、地域の相談窓口でオンライン面談を導入するなど幅広い選択肢を用意しておくことが重要だと考える。

また、女性農業者グループについても、WEBで情報発信を行うなど地域の中で存在を認識してもらうことが重要だと考える。多くの人に認識されることで、女性農業者グループを対象とした継続的な支援やグループ同士が意見交換を行うための環境整備が進み、女性の農業分野における活躍推進という点においてその存在意義が高まることが期待される。

こうした女性の農業分野における活躍推進に関わる方々にとって、今回のデイリーウーマンズの事例が参考になれば幸いである。

謝 辞

本稿の作成に当たり、オンライン取材にご協力いただきましたデイリーウーマンズの関係者の皆様には、厚く御礼申し上げます。

(参考文献)

- ・農林水産省 女性の農業における活躍推進に向けた検討会「女性農業者が輝く農業創造のための提言～見つけて、位置づけて、つなげる～概要」
- ・農林水産省 「農業経営改善計画の営農類型別等の認定状況（令和2年3月末現在）」
- ・農林水産省 「平成28年度農村女性による女性企業活動実態調査の結果について」
- ・株式会社日本政策金融公庫 「令和元年7月農業景況調査」（令和元（2019）年12月）」
- ・農林水産省 「令和元年度 食料・農業・農村白書（令和2年6月16日公表）」
- ・農林水産省 「令和2年度 食料・農業・農村白書（令和3年5月25日公表）」
- ・農林水産省 「2015年農林業センサス」
- ・北海道 「令和2年度（2020年度）北海道農業・農村の動向」
- ・網走市 「令和3年度あばしりの農業」

- ・ NOSAI道東 「家畜技術情報 子牛のコクシジウム病について（令和元年3月）」
- ・ 農業女子プロジェクトホームページ
<<https://nougyoujoshi.maff.go.jp/>>（2022/ 1/21アクセス）
- ・ JA全農ウィークリー「北海道帯広市で『酪農女性サミット2019』開催」
<<https://www.zennoh-weekly.jp/wp/article/7116>>（2022/ 2/18アクセス）
- ・ 網走市ホームページ
<<https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/>>（2022/ 1/21アクセス）
- ・ 気象庁ホームページ
<<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>>（2022/ 1/21アクセス）
- ・ オホーツク総合振興局ホームページ
<<https://www.okhotsk.pref.hokkaido.lg.jp/>>（2022/ 1/21アクセス）
- ・ 農林水産省ホームページ
<<https://www.maff.go.jp/>>（2022/ 1/21アクセス）
- ・ 北海道庁ホームページ
<<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/>>（2022/ 2/18アクセス）
- ・ デイリーウーマンズホームページ
<<https://suger214suger.wixsite.com/calf-plus/blank>>（2022/ 2/22アクセス）
- ・ NOSAI道東ホームページ
<http://www.nosai-doto.or.jp/06_gijyutu.html>（2022/ 3/17アクセス）